

I 万博は世界最大の公式イベント

- ≠ 各種見本市、地方博覧会等の催し
- ≠ 国際美術展 (ヴェネツィア・ビエンナーレ、横浜トリエンナーレ等)
- ≠ オリンピック

⇒ 主催国は、現在・未来の世界に向かって公的にメッセージを投げかけ、それを歴史に刻むことができる。

II テーマ「いのち/LIFE」(「私たちの“いのち”を考える」)

- ・生命科学
- ・気候変動、生物多様性
- ・異文化理解/他者との共生 (日々の暮らし～世界大の文化多様性)

⇒ 文化も含めた人間の生きる (最広義の) 環境について、「いのち」の問題として考える。

III 大阪から多様な「民」の声を世界へ

- ≠ 東京からのメッセージは「お上」の声

⇒ 「大阪の声」だけでなく、民の都として日本中の多様な声を巻き込み、盛り上げていく心意気で推進する。

- 大阪だからできる。
- 大阪のある日本だからできる。

IV 懐徳堂のまちがつくる万博

- ・町人たちが世界でも先進的な知的対話の場を形成した大阪
- ×
- ・「実体験」(実物展示)の場としての万博

⇒ (展示のみならず)「対話」の実体験を積み重ねる場としての、21世紀が欲する新しい万博のスタイルを提案する。

- 準備段階から、地元の多様なコミュニティにおける対話の創出。
- 会期中、会場内外で大小さまざまな対話の場を設定。(各パビリオンの特徴を生かして/主催者側イベントとして)
- 最先端技術により、万博会場と日本～世界の隅々を結ぶ対話を実現。
- 総じて、会場から大阪のまちへ～大阪から日本・世界の各地へとあふれ出す万博のあり方を追求(世界を一つ屋根の下に収める箱庭として始まった万博は、世界をそのままにつなぐ交流の一大場面に)。